



天平のひろば

2024 年 2 月発行

89 号

☎/Fax 0742-34-7713

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）
〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

e-mail : npoheijyou@yahoo.co.jp
http://www.heijyonet.nara.jp

もっと愛される平城宮跡に ！



2024 年は干支の甲辰にあたり、「鯉の滝登り」の如く立身出世と長寿を象徴する目出度い龍の年です。「六六変じて九九鱗となる」との故事にあやかり、一歩成長の年となることを願っています。

さて、本会は本年度で設立 23 年目を迎えます。私たち NPO 平城宮跡は奈文研のご指導の下、会員の皆様とともに一層時代に即した活動を展開して参りたいと思います。平城宮跡の環境保全は本会の眼目となる活動ですが、22 年間の地道なクリーン活動により、大きな成果が得られています。今後は更に多くの環境関係団体との連携と近隣市民との協働が進められるような取り組みをして参りたいと思います。

また、平城宮跡から出土した「古代瓦」や「木簡」或いは「かりうち」の普及活動は主に天平祭や学校行事などのイベント参画型で実施してきましたが、奈文研や管理センターと共同した幅広い文化財の公開事業となるよう着実に活動を進めていきます。

一方、資料館といざない館の歴史講座を年間 15 回開催、毎回ほぼ満席となるほど好評を博しております。平城宮跡ファン醸成に向け、更に工夫して開催していく積りです。歴史公園ガイド事業は「奈良時代を今に感じる」というコンセプトを踏まえた語り部として、これまでに 16 万 5 千人もの来場者に語ってきました。今、国交省の東楼工事も順調に進捗しており、ガイドを通して復原事業への理解を広げて参ります。「天平のひろば」は 2 年後の記念すべき 100 号を目指して力を入れていく所存です。

本年も皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。（鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長）

令和 5 年度歴史公園ガイド研修会



飛鳥歴史公園柳沢秋介所長挨拶の様子

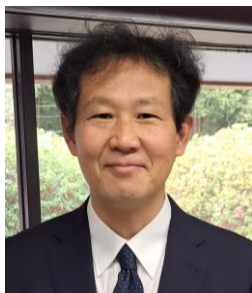
12 月 16 日 52 名は平城宮跡管理センター、奈文研、万葉文化館の協力を得て、バス（2 台）で歴史公園ガイド研修を実施しました。

飛鳥歴史公園柳沢秋介所長挨拶の後、NPO 平城宮跡鈴木浩理事長から活動体制の周知、管理センター奥村典康分室長からガイド時はボディランゲージとスマイルで案内する大切さなどの指導がありました。続いて万葉文化館泉澤千加子総務・広報課長の概要説明後、5 班に分かれて飛鳥池工房跡など、ベテランガイドによる館内ガイドを受けました。

午後は、飛鳥資料館で林正憲奈文研室長から「藤原宮から平城宮へ—受け継がれるモノと思想」の講演。田中元洋飛鳥歴史公園工務課長から「第一次大極殿院東楼工事の現況と工程計画」の詳細な説明があり、奈文研藤原調査部に移動して、林研究室長から藤原宮跡資料室の展示説明が 2 回にわたり行われ、普段のガイド以上に終日タイトな研修となりました。（編集部）



奈文研 林正憲考古第三研究室長の講演



1月28日第49回平城宮跡歴史文化講座が、平城宮跡資料館講堂で173名を前に「聖武天皇の生涯～後継者問題～」と題し講演。

聖武天皇は701年の生まれで、717年に同年齢の光明

子と結婚、724年に即位した。子供は光明子との間に2人、県犬養広刀自との間に3人である。光明子との間には717年阿倍内親王が生まれた。727年には待望の男子(某王)が誕生したものの、翌年死去。同年には、県犬養広刀自が安積親王を出産していたが、聖武・藤原氏側は皇位が他の系統へ移る危機感を抱き、草壁皇子～聖武の系統(藤原氏系でもある)でつなごうとして、天武の孫あるいは、曾孫世代の皇族を後継から排除していく事となり、聖武の後継者を巡る多くの騒乱の端緒となった。

729年に高市皇子→長屋王系の膳夫王他二王を、「長屋王の変」で排除。皇族ではない光明子を「皇后」とし、他の妻の位も格上げし、その子供たちの「母」の権威を引き上げる。

738年阿倍内親王は立太子したが未婚。その次をどうするか。男性でなくとも女性で聖武の系統をつなごうと、県犬養広刀自所生の不破内親王を、天武の孫で、新田部親王の子塩焼王と結婚させるが、742年塩焼王は皇位に意欲をみせたか警戒され配流。この系統は一時回復するが結局後継から除かれる。

744年には安積親王が死去、聖武の男子はいなくなった。この年広刀自所生の井上内親王を伊勢斎宮から帰還させ、天智天皇の孫にあたる白壁王(有力皇族として見込まれていたか)と婚姻。

749年孝謙天皇(阿倍内親王)即位。すぐに皇太子は立てられず、天武→草壁→文武→聖武→孝謙と続いた男系の皇統は断絶した。

756年に聖武上皇が死去。遺詔で天武の孫で塩焼王の弟、道祖王が皇太子となったが、これも翌年廃される。舍人親王の子(天武の孫)、大炊王が藤原仲麻呂の後ろ盾もあり、758年(淳仁天皇)即位し

たが、藤原仲麻呂の乱により廃位。これにより、舍人親王系も排除された。764年孝謙上皇が重祚(称徳天皇)。

770年天智の孫で井上内親王と結婚していた白壁王が即位(光仁天皇)。しかし、井上内親王は呪詛の疑いで、皇太子となっていた子の他戸親王ともども廃され、聖武系は男系女系とも絶えた。(編集部)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

5月25日(土)13時30分～第23回通常総会
続いて、寺崎保広(奈良大学名誉教授)「演題未定」

遺跡見学会(飛鳥の遺跡・古墳を巡る)

11月3日奈文研藤原調査部林正憲考古第三研究室長の解説で、15名が石神遺跡、古宮遺跡、豊浦寺跡、水落遺跡などを散策。地中梁工法や漏刻造りの高度な技術を垣間見ながら小山田古墳、菖蒲池古墳などを巡りました。何故ここに置かれたのかは諸説ありますが、亀石や鬼の雪隠・俎の巨岩石にはいつもながら驚かされます。“古のロマン”を感じながらの遺跡見学会となりました。



第3回かりうち大会

11月23日奈文研、管理センター、NPO平城宮跡が連携して実施。親子連れ50人16組の白熱したトーナメント戦は、最後まで勝ち負けが分からない盤上ゲームでした。(文化・ガイド部会)



(いざない館前の芝生にあかね毛氈が映える)

「おぎの美術館」で除草作業

おぎの美術館の景観保全のため、11月26日と12月5日に美術館周辺で管理センターと共同して、14人が19袋/900、セイタカアワダチソウ地下茎からの除去作業を行いました。(緑の保全部会)

好評 平城京 歴史講座

吉田卓爾さん（正倉院事務所保存課研究員）が10月14日93名を前に「奈良時代の絵画作例と正倉院宝物」と題し講演。



奈良時代前半までの絵画は、中国初唐時代の影響が大きく「世俗絵画」と「仏教絵画」に分けられる。前者は線の表現を重視する

「下描き⇒線描き⇒彩色」の技法で描かれ、代表作例は高松塚やキトラ古墳の壁画である。後者は「下描き⇒彩色⇒描き起こし」の技法でインド的な表現の流れも汲み、法隆寺金堂壁画「阿彌陀浄土図」で代表される。

正倉院宝物の作られた中期以降は、盛唐時代の中国絵画の技法・精神性の深化の影響を受け線描表現が洗練され対象を的確に描けるようになる。「東大寺大仏蓮弁線刻画」、「鳥毛立女屏風」などは代表的な作例である。

さらに、風景・山岳表現も、実際のものに近い表現ができるようになり代表作例の「騎象奏楽図」は、同時代に描かれた「狩猟宴楽図」と比べても格段に発展した表現になっている。

またボストン美術館蔵の「霊鷲山釈迦説法図」は仏教画だが、仏像の背景に進んだ山岳表現が取り込まれている。（編集部）

桑田訓也さん（奈文研主任研究員）が11月11日93名を前に「平城宮東方官衙と東大溝出土の木簡」と題し講演。



平城第621次調査東方官衙の基幹排水路東大溝[SD2700]から約10,000点の木簡を発掘して、今も洗浄中。『奈文研紀要2022』などで150点が公表されている。

なかでも、天皇の身の回りの世話をした役人の「女官」の勤務評価木簡を初めて発掘した。その「考課木簡」には59歳と記載があり、官の勤務評価で年間329日の勤務は今と違って相当激務だったのではと、近年話題になった。

また万葉仮名で「倭歌」と記した木簡は、平安時代に一般化する和歌より早い実例ではないかと

推定されている。出土木簡の内容は荷札木簡など多岐にわたり、中務省・宮内省など平城宮東方官衙上流の木簡が出土されている。

調査区全域の位置図と遺構平面図を見ながらの「木簡の形式分類」、さらに、木簡の写真と釈文は、興味深い内容であった。（編集部）

松井一晃さん（橿原市文化財活用保存課課長補佐）が12月9日101名を前に「新沢千塚古墳群と古墳の論理」と題し講演。



古墳は、墓というより、被葬者の力を誇示し社会を治める支配の装置として、

大きさは地位・権力の大きさを表すという「古墳の論理」で築かれ始めた。

新沢千塚古墳群は5世紀後半から6世紀前半を中心に築造された400基以上を数える群集墳で、この頃には新しい支配階層が形成され、今の町内会長クラスも古墳を造れるようになる。古墳群の126号墳からは、ローマやペルシア製とされるガラス製品や装身具など見事な副葬品が出土している。大きさは22m×16mで他の古墳同様小規模である。この古墳群の被葬者たちは大きな古墳を造れるほど、支配層の中での地位は高くないと考えられる。しかし、少し後の牽牛子塚古墳は、最も身分の高い斉明天皇の墳墓とされるが、規模は126号墳とほぼ同じである。

この間646年には「大化の薄葬令」が出され、この法律により身分によって墳墓の規模が制限される事となる。

このように古墳の造営が、時代の変化と共に、元の「墓」に回帰し、「法の支配による論理」での造営に変容していった。（編集部）

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

2月10日：岩井共二（奈良国立博物館美術室長）

「着衣からみた白鳳仏の謎」

3月9日：北村憲彦（飛鳥管理センター歴史専門員）「五畿七道と陰陽五行」

4月13日：西岡加奈子（田原本町教育委員会事務局文化財保存課技師）「弥生の環濠集落遺跡～唐古・鍵遺跡について」

平城宮跡都城発掘調査部考古第三研究室 主任研究員



1982年北海道札幌市生まれ。
2006年京都大学文学部卒業、
2008年同大学院文学修士課程
修了、2011年3月同大学院博
士後期課程単位取得退学。同
年8月奈文研に採用。2016年

4月より文化庁記念物課、同庁文化財第二課を経て、
2022年4月奈文研に異動し、現在に至っています。

川畑さんは、日本列島における国家形成のあり方
とその特質、その中で物質文化や各種モニュメント
が果たした役割や武器・武具を始めとする鉄器の生
産や流通、文化財の調査・研究と保存・活用の今日
的なあり方や意義について関心があります。

考古第三研究室は、瓦磚類および凝灰岩・礎石など
の石製建築材料の整理と研究。特に寺院跡や宮殿跡の
調査では非常に多くの瓦が出土しますので貴重な情報
を引き出すことが期待できます。瓦の文様や製作技法
などから、主に瓦の年代や生産地（瓦窯）と供給地（宮
殿・寺院）の関係等を研究しています。

学生時代は、レバノンやエジプトの海外調査など
を経験しました。文化庁在職中は主に埋蔵文化財の
調査や保存活用の助言に追われ、自ら役人は不向き
と、長身を持て余すように豪快に笑っていました。

平城宮跡ボランティアの皆さまに望むことは、
“元気に澁瀬としていて欲しい”ということ。その
うえで、“見て触っていただく”ような形ができな
いかも考えていきたい。機会があれば皆さまに普段
は見れない資料や作業を知ってもらうことができ
ればよいと思う。“人が遺跡を元気にする、遺跡が
人を元気にする”と話されたことが印象的でした。
また平城宮跡以外の歴史公園をみても個性ある活
用が、あちらこちらで展開されていて、それぞれの
特色を生かすのが一番と、快活に話していただきま
した。

最後にNPO平城宮跡から、文化財保護法のもと、
地下の正倉院展なども保存と活用を巧く、工夫して
いただきたいと思います。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

平城宮跡探検隊“どんぐり拾い”

10月29日NPO平城宮跡が4年振りにどんぐり拾
いを開催しました。

参加者（80名）は、競うようにどんぐり70キロを
集め、「奈良の鹿愛護会」にプレゼントしました。
参加賞をゲットした子供たちは満足そうでした。



奈良の鹿愛護会にどんぐりをプレゼント



どんぐり拾いの人たちが朱雀門ひろばは大盛況

（文化・ガイド部会）

新規会員の紹介/募集

新規会員の紹介（2月1日現在）

長谷川紀子さん、服部恵美さん、森上由紀子さん
が入会しました。

新規会員の募集

〈活動の支援/入会のお申し込み〉

❖個人が支援/活動 年会費 3000円

❖法人が支援/活動 年会費 10000円

◆お申込みなど：☎0742-34-7713

編集後記

『東風吹かばにほひおこせよ 梅の花
主なしとて 春な忘れそ』

平城宮跡は梅の花が香る季節となりました。

今年はなお一層、元気に澁瀬と活動をいたします。

（萱鼠）